

入選

テーマ：誰かのために、わたしが出来ること 「スイーツ作りを通して」

愛知県立安城農林高等学校3年 永田明日香

私は、小さい頃からお菓子作りが大好きで、中学卒業後、食品の知識について学びたいと思い、安城農林高校の食品科学科に入りました。今はハンディーを持っている人や、高齢者の人にも、お菓子作りの楽しさを知ってもらう為に、ケーキ作りの改良をしている活動をしています。

ある日、デイスーツの人からスイーツ講習会の依頼があり、チーズケーキの試作会をすることになりました。お年寄りの力では、泡立て器を使って泡立てたりすることが難しいと思い、きき手でない左手でハンドミキサーや、ゴムベラを使って生地混ぜ時間を計ったり、わかりやすい説明方法を考え、チーズケーキ作りの改良に取り組みました。試作会当日、作り方の説明には、前もって撮っておいた写真を各工程ごとに見てもらいながら一緒に作りました。

デイスーツの利用者さん達の中には、目が見えない人もいて、ケーキの生地を混ぜられるか心配でしたが「混ぜます」と、快く引き受けてくれました。ボウルを相手の前に持っていく、ゴムベラを手に渡してみると、まるで見えるかのように混ぜていて、私は驚きを隠せませんでした。他にも耳が聞こえない人や手がうまく使えない人もいましたが、一番印象に残っているのは、一人のおばあちゃんとの出会いです。

その女性は、八十二歳で、左手が布でくくってあり、左目は開いていませんでした。しかし、材料を計量していると車いすで来て、笑顔で後ろからのぞき込んでいました。話を伺うと、昔は娘や孫の誕生日にケーキを作っていて、お菓子作りが好きだったと言っていました。「今は作りたいけど作れない。だから、久しぶりにケーキを作れてとっても嬉しいわ」と喜んでくれました。生地を一生懸命楽しそうに混ぜて

いて、興味を持ってくれていたという実感が嬉しかったです。感想を伺ったところ「ケーキのサイズがとて面白い」など、嬉しい言葉をたくさん頂きました。このおばあちゃんは、私を孫のように思ってくれたのか、手紙が届きました。

その内容は、「こんにちは、あの日食べたミニチーズケーキは大好きです。又、作りたいですね。私は正直なあなたが大好きです。私の主人は死にました。気軽に家に来て下さいね。ケーキのお礼の手紙です。体を大切に。さようなら」と書いてありました。初めて会った人なのに、こんなにも優しい言葉を頂けるなんて思いもしませんでした。

その時から、私の気持ちは変わりました。今までは、趣味としてお菓子を作っていました。このおばあちゃんに出会って、いろんな人に食べてもらいたいと思うようになりました。そして、食べる人に感動を与えることができるパティシエになることが夢となりました。偶然出会ったおばあちゃんのおかげで、こんな気持ちになりました。感謝し、夢をあきらめず、今の自分にできることをしていきたいと思っています。

誰かのために私が出来ること。それは、お菓子作りをしたいけれど、作ることが困難であるハンディーのある人や高齢者の人達に、どんな人でも作れる製造方法の工夫をしたバリアフリーレシピを作り、お菓子作りを通して楽しさを知ってもらい、明るい未来を見つけてもらうことだと私は思います。

夢を持ってもらえるように、私自身も夢を追いかけてながら、共に明るい人生にしていきたいと考えました。

おいしいスイーツの周りには、いつも笑顔があふれています。だから私は、そんな笑顔をたくさんの人たちに分けられるパティシエを目指します。